臨床・研究・教育を横断しながら、自分の専門性を広げてきた例

歯科医師 × 「研究をつなぐ」



OUCHI Takehito

黄地　健仁　DDS, PhD

東京歯科大学 生理学講座　講師

リサーチアドミニストレーター（兼任）

研究：幹細胞・再生医学・重力生理学

歯科医師として臨床研修を経験した後、基礎研究の道へ進み、慶應義塾大学で博士号を取得。歯科・口腔外科で臨床と研究に携わったのち、Harvard University / Harvard Stem Cell Instituteで幹細胞研究に従事した。
現在は東京歯科大学で、歯の再生研究を中心に、宇宙環境が唾液腺に及ぼす影響などへ研究領域を広げている。教育や研究支援にも携わりながら、これまでの経験を生かし、「異なる分野をつなぐ」ことを大切にしている。

臨床と基礎研究をつなぎながら、学び続ける

歯学部卒業後、臨床研修を経て大学院へ進み、基礎研究に取り組んだ。研究対象は、iPS細胞やがん幹細胞、歯髄幹細胞、唾液腺へと広がってきたが、根底にあるのは「口腔の機能を生理学的に理解し、再生へつなげたい」という関心である。
海外での研究経験では、専門分野の異なる研究者との議論や共同研究を通して、自分の研究を別の角度から捉えることを学んだ。帰国後も、臨床・基礎・再生医学・宇宙生命科学など、異なる領域の接点を意識しながら研究を続けている。一つの専門にとらわれず、これまでの経験や出会いを新たな研究へと生かしていく姿勢を大切にしている。

学生・若手研究者へのメッセージ

研究を始めた時点で、将来の専門やキャリアがすべて決まっている必要はありません。臨床で抱いた疑問、研究室で出会ったテーマ、留学先での共同研究など、その時々の経験が後になってつながることがあります。
大切なのは、目の前の課題に丁寧に向き合いながら、自分の専門外にも関心を持つことです。研究では思うような結果が得られないこともありますが、そこで身につけた考え方や技術、人とのつながりは、その後の研究や新しい挑戦に生きてきます。自分なりの軸を持ちながら、新しい分野との出会いを楽しみ、学び続けることを大切にしてほしいと思います。

経歴

主な経験・研究の広がり

2011–2013	東京歯科大学卒業後、慶應義塾大学病院で臨床研修歯科医を修了。
2013–2017	慶應義塾大学大学院医学研究科 博士課程。基礎医学・幹細胞研究（iPS細胞、組織幹細胞）に取り組む。
2017–2019	慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 助教。臨床と研究を並行。がん幹細胞に着目した橋渡し研究を推進。
2019–2021	Harvard University / Harvard Stem Cell Institute 博士研究員。幹細胞・再生研究（骨格幹細胞）を展開。
2021–現在	東京歯科大学 生理学講座（2024年より講師）。歯の再生、宇宙月面重力環境下での唾液腺研究を推進。
2025–現在	東京歯科大学 リサーチアドミニストレーター（兼任）。研究支援・分野横断的な連携にも従事。